

J S A F 外洋会議 議事概要

2010年6月18日

文責：野田 裕二

日時：2010年6月18日(日) 15:00~18:30

場所：新宿パークホテル会議室

出席：植松眞副会長、児玉萬平常務理事、外山昌一理事、坂谷定生理事・外洋東海会長、
吉田豊理事、鈴木保夫外洋総務委員長、林賢之輔外洋計測委員長、
福田義一外洋東京湾会長、川久保史朗外洋三崎会長、長谷川外洋三浦事務局長、
稲葉文則外洋湘南会長、山田外洋駿河湾会長、宇都光伸外洋南九州会長、
剥岩外洋南九州事務局長、平井昭光外洋総務委員、野田裕二外洋総務委員、
坂本賢治 I R C オーナーズ協会事務局長、寺澤寿一事務局員 合計19名

< 外洋会議開催について >

ここ数年登録艇及び会員の登録が減少している。登録艇では年間50艇ほど減少し会員では150人ほど減少している。このままでは10年後外洋の活動がなくなるのではないかと心配されるほどであり、この点を改善したいと思っている。登録艇及び会員増加がなければ今後良いレースの開催ができないし、遠征の際の援助や協力をするにも財政面の強化が必要で企業からの協力を得るためにも必要なことである。

J S A F 外洋艇推進グループでは外洋艇関連課題の議決機関として J S A F 外洋会議を設置することにした。これまでに総務委員会で行ってきた討議をこの会議で決議事項としたい。

今後も年2回程度の開催を予定している。次回は J S A F 新年会の翌日2011年1月16日(日)を予定している。

協議事項

< 艇登録セールナンバーの運用について >

現行のセールナンバー割り当て規則

- ・セールナンバーの割り当ては申し込み順にナンバーを割り当てる。
- ・ 番以内のナンバーについては予約することができる。
- ・艇を変更する場合、自分が使用していた旧艇のセールナンバーは手数料を支払うことにより再度使用することができる。

セールナンバー割り当て規則追加項目案

- ・過去に発行されたナンバーでも、使用していないナンバーは手数料を支払うことにより再発行することができる。
- ・使用されていない過去発行した No を公表する。
- ・一つのナンバーに複数の希望者がある場合は、オークションとする。

以上の運用は艇登録データベース化が終了後、このデータベースを基に廃船などにより全く使用されていないセールナンバーを洗い出してからとなる。

以前九州外洋帆走協会として6、000番台のセール番号を発行した経緯があるため、重複がないか確認が必要。

<艇登録データベースの取扱について>

セールナンバーを付け始めた当初からの登録データが紙ベースであり段ボール箱10箱程度あった。今回この紙による登録データをセールナンバーと艇の経歴も併せて電子データベースとしてエクセル2003に入力を終えたが、セールナンバーが6、000番台でありデータ件数が8、000件以上となっているので個人情報保護法の対象となり取扱いに注意が必要。

今後このデータを誰がどこまで見ることが出来るか十分検討を重ね決めて行きたいが、現時点では各加盟団体事務局まで開示とする。

データベースは海上保安庁からの問い合わせに有効であり、海上保安庁とも相談の上提出することも検討する。

<艇登録データベースの確認のお願い>

今回入力したデータは入力しただけであり、各加盟団体が把握している情報と併せて確認が必要である。今回配布したCDのデータで確認修正を行って欲しい。特に泊地に関するデータ不足が目立つため各加盟団体の協力が必要である。

まず現在有効なセールナンバーの艇情報を2週間程度目処に確認修正を行って欲しい。その後その他の艇情報も確認して頂きたい。各加盟団体で確認作業終了後最新のデータを加え完成としたい。

<会員・登録艇増強について>

セールナンバーデータベースを基にセールナンバーを付けた未登録艇に登録を促す。方法としては登録を促す案内書を作成し配布する。配布方法はセールナンバーデータベースよりオーナー住所へ郵送する、各加盟団体に依頼する、マリーナ及び艇販売会社やセールメーカーに協力を依頼するなど検討を行い実施する。但し外部にデータを出す場合は個人情報保護法の対象となるため機密保持契約を締結する。

ヨットレースを行う場合RSSを利用するのでJSAF会員及び登録艇であるべきだが、全艇が登録艇、全員が会員とすると参加艇が少なくなるとの声もある。今後会員及び艇登録を推進するためにも、オープン参加艇や非会員の参加の場合追加参加費を徴収し、また2回までなど条件を設定しレース公示に加え入会を促す、または登録艇のみ参加できるレース開催や乗員が会員でなければならないレース開催なども良い推進になるのではないかと。

主要レースに併せて新会員及び艇登録のキャンペーンを各加盟団体の協力の下に行うなど、積極的な推進が必要。新規入会希望者より入会金が高いとの声があるので、初年度のみ加盟団体費用を下げるなど各加盟団体の協力が必要ではないかと。また各加盟団体で独自の企画を立て結果報告を行うのも一案ではないかと。

艇登録はセールナンバーの事だけではなく艇の安全面でも艇を登録し安全規定を守る必要あり、会員が受講できる安全講習も有用である。

年々会員・登録艇とも減少しているので5年前の会員数である約3千人、登録艇数約1千艇を目標に活動する。

<艇登録 Web サイトについて>

艇登録及び支援艇登録と海岸局加入証明発行に向けた業務用 Web サイトを開設しているので活用して欲しい。特に支援艇登録を簡素化することで登録艇の増加を期待したい。

JSAF 湾岸局加入料を当面無料としているが、いつまで続けるか検討が必要。無料化による登録艇の増加も期待できるので当面とは3年間とし、今後の会議で再検討する。

<登録事務の集中化について>

今後新たなセールナンバーを付けるには全国的な規模での艇登録データを取り扱うため一元化し集中処理を行う必要があり、どこで行うか決める必要がある。現在支援艇登録の希望がありどの水域に属するか判断付かない場合のみJSAF本部で行っているが、今後窓口を決める必要がある。

<加盟団体からの提案・要望>

今年のパールレースで使用したOCトラッカーは有意義であったが、本体レンタル費以外に通信費が高く今後JSAFでの負担協力もお願いしたい。

主要レースはスケジュールが重複しないように情報交換し調整するか、主要レースは開催時期を固定化する必要がある。

<特別加盟団体入会申込について>

特別加盟団体の新規申込がIRCオーナーズ協会と全国学生外洋帆走連盟より提出されたが、現在でもレースの規格等はできるので現在のままでも支障が無いのではないかと、IRCオーナーズ協会のメンバーは全員JSAFメンバーなので加入しても会員増加には繋がらないのではないかと、加入した方がIRCの発展に繋がるのではないかと、等の意見が出され、結論には至らなかった。

よって、外洋総務委員会において意見を整理して次回の外洋会議に諮ることとなった。

<中国ヨット協会招待レースについて>

10月29～11月1日開催のチャイナカップにパピヨンのみ参加申し込みがあった。

9月9～13日開催の中日韓親善キールボートレースに昨年の神戸大学と現地の日本人学校より参加希望があった。以上についてJSAF承認参加とする。

チンタオで行われる2レースの案内が先方の手違いで届くのが遅かったため直ぐに返答する必要がある。

今後このようなレースに参加できる条件として、例えばジャパンカップ優勝者に権利があるなどレース結果に対しインセンティブを付けるのも良いのではないかと。

報告事項

<会員・艇登録チラシ作成について>

JSAF外洋で会員・艇登録推進チラシを作成し、各フリートの掲示板上に掲載するなどを行う。但し入会費については各加盟団体費用が異なるため明確な金額を記載出来なかった。各加盟団体より金額を記載したチラシが必要なら作成も可能である。

<2010年ジャパンカップ報告>

2010年ジャパンカップと全日本ミドルボート選手権でJSAF運用規則第2章の一部適用規則変更許可申請しレース委員会で承認された。

<沖縄 - 東海ヨットレース2010年ジャパンカップ報告>

12艇参加、7艇完走、4艇リタイヤ、1艇DNC。

リタイヤ後エンジン部分より出火し一時非常事態になりかけたが大事にはならなかった。

今回使用したOCトラッカーにより位置が掴めていた事が有意義であった。

<パールレース報告>

今回7月16～19日の日程とし、他の地区のレースと重複してしまったが回航とクルーの休みの関係でありご了解頂きたい。

<2011年ジャパンカップ報告>

レース開催日を固定化できないか、案として9～11月のいずれかの連休を使い4～5日使いたい。開催地も参加艇を見て3カ所(関東・関西・名古屋)で順次開催。レースはオフショア・インショア・ブイ周りとしたい。

また費用面も削減し総予算400万円程度で行いたい。参加艇も20艇ほどにしたい。

<各加盟団体からの報告>

三崎ヨット無線局は土地所有者変更により移設が必要となり移転作業を行っているが、今年のパールレース前までに移設は完了する。遠隔地操作をインターネット経由とし運用費の削減を行った。

以上